

【5月の気象】

5月の季語には、「新緑」「新茶」「麦の秋」など実りや爽やかな春を思わせる一方、「初夏」「立夏」など夏の始まりを思わせるものもあります。

この時期は季節の変わり目で気温の変化が大きい時期です。最高気温が30℃を超える日もあれば、20℃に達しない日もあります。特に、移動性の高気圧に覆われて晴れた朝には、放射冷却による晩霜のおそれもありますので注意が必要です。

5月はさわやかなイメージがありますが、気温の日変化が大きいように、気象の変化も大きい時期です。低気圧が発達しながら日本海を通過することにより、広い範囲で天気が急激に変わり、暴風・しけとなり、東予東部では「やまじ風」が吹くことがあります。また、上空に冷たい空気が入ると大気の状態が不安定となり、激しい雷や突風とともに“ひょう”が降ることもあります。反対に好天が続き、少雨や空気が非常に乾燥することがあります。松山では2009年5月10日に日最小相対湿度6%を観測し、観測史上1位の記録となっています。

【気象用語】「愛媛県の局地風」について

地方によって、その地方特有の局地的な強風が吹くことがあります。これを局地風と言いますが、愛媛県では、東予東部の「やまじ風」、宇和島市の「わたくし風」、大洲市長浜の「肱川あらし」が有名です。

○ やまじ風

東予東部では、台風や低気圧が日本海を通過するときに南よりのおろし風（山から吹きおろす局地的な強風）が吹くことがあり、「やまじ風」と呼ばれています。「やまじ風」は「清川だし（山形県）」「広島風（岡山県）」と並び「日本三大悪風」と呼ばれ、強風により住家や農作物等への被害、交通障害が発生することがあります。

「やまじ風」は台風や低気圧が日本海に入り四国地方で南よりの風が吹きやすい状況の時、高知県から吹いてくる南よりの風が東予東部にある法皇山脈を吹き降ろすことで起こります（第1図）。「やまじ風」は山岳からのおろし風で、フェーン現象により強風とともに気温が上昇します。

○ わたくし風

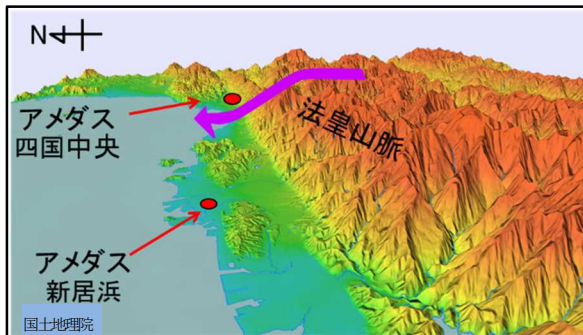
宇和島市では、低気圧等が四国の南岸を進むときに東よりの強風が吹くことがあります。この強風を地元では「わたくし風」「深山おろし」「大風」「宇和島風」と呼んでいるようですが、ここでは「わたくし風」とします。

「わたくし風」は低気圧等が四国の南岸を進むとき、高知県側から東よりの風が鬼が城山系を吹きおろす強風で、農作物等に被害が発生することがあります（第2図）。「わたくし風」もおろし風で強風とともに気温の上昇が見られます。

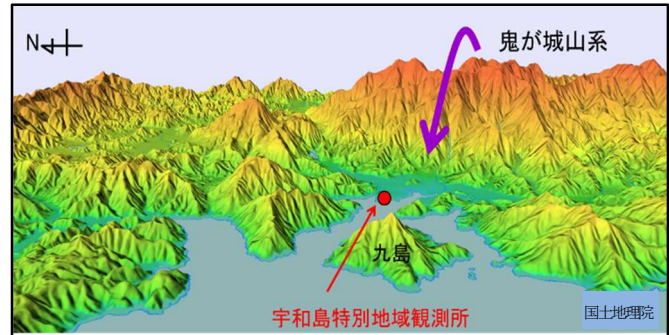
○ 肱川あらし

大洲市長浜では、秋から冬の良く晴れた日に肱川沿いを強風が吹くことがあり、霧を伴うことがあります。

「肱川あらし」は、大洲盆地と伊予灘の温度差により発生し大洲盆地で冷やされた空気が肱川に沿って海まで流れます。その折に地形の収束効果が加わり南よりの（川筋に沿った）強風となります。早朝から昼頃にかけて発生し霧を伴うことが多くあります。



第1図 やまじ風発生の様式図



第2図 わたくし風発生の様式図